

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和８年度 近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会		
開催日時	令和８年４月１３日（水）１３時３０分～１５時３０分		
開催場所	近江八幡市役所 ４階 委員会室２		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	【出席者】※敬称略、順不同 和田 一浩、安田 隆雄、浜松 忍、白須 正（◎）、土井 勉、 川瀬 明日望 【事業担当課】 今村 高明（商工振興課 課長）、村岡 亘（商工振興課 課長補佐） 浅田 耕也（文化振興課 課長）、山田 美咲（文化振興課 技師） 万野 英夫（生涯学習課 課長補佐） 岡地 剛裕（生涯学習課 主任主事） 中村 浩一（学校教育課 課長補佐） 伊崎 佐知子（まちづくり協働課 課長）、北川 直哉（まちづくり協働課 主査） 【事務局】 武田 善雄（企画課 課長）、東 有希（企画課 課長補佐） 茶谷 健之（企画課 副主幹）野田 有寿華（企画課 主査） 大石 昂汰（企画課 主事）		
次回開催予定日	未 定		
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部企画課 大石 昂汰（おおいし こうた） 電話番号 ０７４８－３６－５５２７ メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・ 要約	要約した理由	内容を整理して、分かりやすく記録として残すため。
内容	別紙のとおり		

事務局	1. 開 会 省 略
事務局	2. 議題に係る事前説明 事務局より、各事業の選定理由を説明。 ①起業にチャレンジできるまちづくり事業については重点戦略1の稼ぐ地域を作るとともに安心して働けるようにするに基づく事業として選定した。 ②VR安土城新シナリオ作成とHMDの購入事業については重点戦略の2の新しい人の流れを作るのうち個別戦略イ関係人口の創出拡大に基づく事業として選定した。 ③子ども若者育成支援プロジェクト008については重点戦略3の結婚出産・子育ての希望を叶えるのうち、個別戦略イ、仕事と子育ての両立等、子育てしやすい環境づくりに関する事業として選定した。 ④中学校部活動協会支援事業及び⑤北里コミュニティエリア構想ワークショップ実施事業については重点戦略4、人が集う安心して暮らすことができる魅力的な地域を作るに基づく事業として選定した。 また、①、②、⑤の事業については国の新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用した事業であることから本日、外部評価をいただきたく選定している。
商工振興課	3. 議題及び意見交換 <①起業にチャレンジできるまちづくり事業> 商工振興課より資料2事業シートNo.2に基づき説明。
委 員	・起業し、成功した人をロールモデルとして市内に広がっていけばという事業に思う。 ・一点課題として、伴走者の重要性が指摘される一方で、その担い手が不明確である。地域に根差した伴走者や、産業・人をつなぐ役割を担う人材の育成が求められる。 ・例えば、沖島の湖魚をテーマとする場合、製品化を進める上では、流通や販路に詳しい人材との連携も重要となる。事業を必要以上に広げる必要はないが、そのような視点を持って進めてほしい。 ・施設整備だけでなく、伴走支援を担う人材が非常に重要ではないかと思う。ハード整備に偏っている傾向が見受けられたので。
委 員	・東近江であれば農業で起業したい人等が想像できるが、近江八幡市ではどのような人に事業者として来てほしいと考えているのか。
商工振興課	・魅力的な働き口を設ける。収入を得て、定住してもらう。これが総合計画に記載されていることでもあり、それに沿っていくイメージ。また、商工業と

委員	しては、本市は小売業が多い。製造業の事業者が市内に来ていただけると良いと思うし、本当に様々な起業家に来てもらいたい。
商工振興課	・コンシェルジュの伴走型を進めるとのことだが、商工会議所でも同じような取組で創業塾等を実施されているが、そこの色分けはどうするのか。 ・内容は現在、実施していることもあるが、伴走の部分は指定管理者に頼む。行政は場所提供のイメージ。コワーキングスペースなどそこで様々なイベントのお試しができる等、それを実施するプロデューサーをコンシェルジュにさせていただくイメージ。商工団体等と包括的に事業を進めていけたらと考えている。
座長	・委員の皆様からも意見があったが、施設は箱物の話が多くあり、ソフトの部分を指定管理とうまく組み合わせほしい。誰でも気軽に集まれて、気軽にアドバイスがもらえるような取組ができればよいのではないかと。ソフトの充実を今後も考えていただければと思う。
文化振興課	<②VR安土城新シナリオ作成及びHMD購入事業> 資料に基づき説明。
委員	・安土城築城450周年ということでもあるので、このVRを全面的にPRして、信長まつりに来られた人がよくわかるようなものにしていただければと思う。
委員	・KPIの数値について説明をしてほしい。リピーター等は想定しているのか。
文化振興課	・信長の館の入館者数が年間約50,000人ということから、その3割程度が体験していただくことを目標に設定している。VR機器については3台あり、1回、10分程度であるため、どんなに急いで体験していただいても18,000人が限界。順番に体験することを考慮しても16,000回が限界ということで設定している。
委員	・一度体験したら終了というのと、もう一度体験したくなるというのは全く違うもの。一度の体験で終了となると非常に勿体ない。このようなプラットフォームを作成したのはよいが、今後どのような展開をしていくのか。飽きられないような取組にしてほしい。
文化振興課	・飽きられないよう3つのモードを用意している。クイズ等ができるようにしている。得点性にしており、得点によってもらえる画像が違い、ゲームが好きな方等はよい得点を取りたい、ゲームをコンプリートしたいといった欲求を刺激しているところ。
委員	・今回の場合は上限3回ということだが、今後さらに成長していけるような仕組みを作っていただきたい。
委員 文化振興課	・VR機器の台数は。 ・信長の館に設置しているのが2台。さらにモニターでプレイできるのが1台。また、お城EXPO等への出展も予定しており、イベントでも活用して

	いきたいと考えている。
委 員 文化 振 興 課	・団体客は対応できないか。
	・スタッフ介助も必要なことから、2台が限界。また、待ち時間はモニターに映し出されるため、それで楽しんでもらうこともできる。
委 員 文化 振 興 課	・衛生面に関する対策は。
	・VR用の目を覆うマスクを着用していただくようにしている。
委 員	・VRは個人的に好きであるため、この取組は非常に良い。ただ、VRだけでなく、このVRを体験した後、実際に安土城跡まで案内できるような仕組みが構築していただければなおよいのではと考える。
委 員 文化 振 興 課	・周知はどのようにして実施されているか。
	・情報提供を近江八幡市の記者クラブに流しており、NHKのおうみ630や4月号の市広報誌の表紙にもさせていただいているところ。
委 員	・信長の館に入館しないと体験できないのか。安土城築城450周年であるため、信長の館に入館せずとも、祭りの際にブースを設置し、体験できるようにはできないか。
文化 振 興 課	・検討させていただく。しかし、文芸セナリヨが運営しているため、他の団体との調整が必要。来られた方に見ていただけるようにできるかは相談したいと考えている。
座 長	・目的は「観光」の認識で間違いはないか。非常によくできていると思うが、3台の設置で16,000人来られたとしても非常にコストパフォーマンスが悪いように思う。HMDはこれ以外で活用できないのか。
文化 振 興 課	・シアターをご覧になった方が、VRゴーグルでの体験に興味を持ち、体験につながるものと考えている。台数をもっと確保したいという気持ちもあるが、運用面でお客が多いとスタッフが対応できないということになる。また、スペースの問題もあり、3台以上設置すると隣の人に接触することもあり、危険も想定される。しかし、イベントなどでは多めに設置し、多くの方に体験してもらうことは検討する。
	<③子ども・若者育成支援プロジェクト(008)>
生涯 学 習 課	生涯学習課より資料及び動画に基づき説明。
委 員 生涯 学 習 課	・特別支援学級を設置しているのか。
	・スペシャルサポートルームというものがあり、通常学級に通えない子どもが通うというものもある。また、「にこまる」という学校とは違った建物に団体がある。
委 員	・親は子の将来を非常に心配している。例えば、自身の健康保険証を持つことができるようになるという目標があると非常にわかりやすい。そのゴールを設定しておく方が参加もしやすいと考えるが。
生涯 学 習 課	・現在、お話をさせていただいたのはステージ1、2の方を対象としてお話ししたが、ステージ3については、企業への就職や就労を見据え、就労への意欲

委 員	が高まった方に対する助言・支援を行っていく。 ・親が安心できるようになるには子どもの経済的な自立というのはなにより重要。また、本日の一項目の起業にチャレンジできるまちづくり事業にも似ている分野に思う。対象者が違うかもしれないが、うまく融合し、連携していただけたらと思う。
委 員	・子どもたちが様々な生き方を選択するために非常に良い事業だと思うが、チラシのビジュアルから敷居が高いと感じる。「小さな成功体験」この言葉をチラシに落とし込む程度でよいのではないか。
生涯学習課	・殻を破るといったところからこのチラシを作成したが、今あたらしくチラシの作成を考えているので、親しみやすさといったものを出していきたいと考える。
委 員	・アクティ改修との連携を図ることで相乗効果が生まれるのではないかと考える。また、引きこもりがちな方は近江八幡市で何人くらいいるのか
生涯学習課	・引きこもりというのが6カ月以上の間、家にいるという定義づけがある。その数を把握できないので、国統計で言われているのが2.05%。15歳から39歳までの人口比に落とし込むと市内では大体440人程度になる見込み。
委 員	・お客様の中には、障がい者のグループホームの事業をされているが、今と昔ではだいぶ変わってきたと聞いた。
生涯学習課	・協議会には福祉分野も入っているので、支援につながれるとよいと考えている。
委 員	・1回で何人ぐらいが参加されているのか。
生涯学習課	・1回目は13人、2回目は5、6人。少ない人数から実施していきたいと考えている。
委 員	・すべて同じ参加者なのか。または違う参加者が参加されているのか。
生涯学習課	・どちらもある。同じ参加者で、成長していく姿もあることから良いことだと考えている。
委 員	・KPIが本事業と一致していないように感じるが。
事務局	・総合戦略から引用しているため、一致しない箇所がある。
委 員	・交通の観点より一つ提案すると、今後の交通網を考えてみるとよいのでは。自立に向けての通所の仕組みは大切だと考えている。
<中学校部活動強化支援事業>	
学校教育課	学校教育課より資料及び動画に基づき説明。
委 員	・私は交通政策にも関わっているが、地域クラブ化の議論になると、必ず移動の問題が出てくる。例えば、ラグビー等で拠点校方式になると、活動場所までどうやって行くのか、終わった後どう帰るのかという問題がある。全て保護者送迎に依存すると、保護者負担が非常に大きくなり、継続的な運営が難しくなるのではないか。コミュニティバスや地域交通との連携など、教育委

学 校 教 育 課	員会だけではなく、市全体で考えていく必要があるのではないかな。 ・送迎問題については、本市としても大きな課題と認識している。国においても、バス代支援等を含めた実証事業の検討が進められているところ。本市としても、現段階では取り組めていないところであることから、コミュニティバス等との連携も含め、地域交通と一体的に検討していく必要があると考えている。
委 員	・ベースとなる方法を早めに作成しておく必要があると考える。そのベースを活用していく中で改善していく形で進めていってもらえたらと思う。
委 員	・学校と切り離れた形で部活動を進めていくことかと思う。昨今、唯一、クラブ活動に積極的に取り組んでいるのは日本だけ。海外の学生は日本の部活動の姿に憧れている。しかし、国の主導のやり方でその姿がなくなっていくのは、あまりよくないと考えている。個人的な意見としてはこれまでのクラブ活動のスタイルで実施していけないか検討をお願いしたい。
学 校 教 育 課	・部活動が培ってきた教育的な意義というのがやはり大事というのは本市も着目している。一方で教員の働き方改革というのもあり、しっかりと学校施設を活用して、クラブ活動を行うのを重視した結果、これまでの部活動を保障するというものになっている。本市の地域クラブ活動は、基本的には部活動の延長というような形で取り組んでいるところから、主体としては部活動が学校、地域クラブは学校教育課というところから、運営の主体は違うが、公が担っているというところから、部活動を大事にしていきたいということで、このような事業を実施しているところ。
委 員	・目的が持続可能な部活動を運営するということであると思うが、やはり課題としては指導者不足と抜本的な地域クラブの活動というところにあると思う。予算を確認すると、人件費が大きく占めているように思う。今後は、ＩＣＴを活用していかなければ、持続可能な部活動の運営は難しいのではないかと考えている。
学 校 教 育 課	・現状、ご指摘いただいた内容については、現時点では十分にに取り組めていない状況である。国の補助メニューにもＩＣＴの推進に関するものはあるが、現段階では活用に至っていないため、今後、さらなるＩＣＴの推進を図っていく必要があると考えている。ただ、一点、現在取り組んでいることとして、保護者や指導員との情報共有については、部活動アプリを導入し、「部活動だより」をスマートフォンで閲覧できる仕組みにより、指導内容や活動内容を一元的に管理・共有している。今後は、このツールを活用しながら、さらなるＩＣＴ化を進めていく可能性があると考えている。
<北里コミュニティエリア構想ワークショップ等実施事業>	
まちづくり協働課	まちづくり協働課より資料に基づき説明。 ・地域の合意形成のあり方について、ご意見いただきたい。
委 員	・これまで多くのコンペ等の事業を進めてきた中で、その都度さまざまな意見を伝えてきたが、十分に反映されなかった部分もあった。実際に施設を利用

委 員	する立場だからこそ見える課題もあるため、地元の皆さんには、日頃感じていることや考えを積極的に伝えていただきたい。 ・ K P I が暮らしやすいと感じる市民の割合ということであるが、この数値は変動するものではないか。同じ人でも状況や環境に応じて変わるもの。インプットとアウトプットの関係性がわからないので、基準になりやすい数字として数えられる数字にするといいのではないか。例えば、自治会加入率等。このような活動を通じて、自治体加入率の向上につなげてもらえたらと思う。
座 長 まちづくり協働課	・ 自治会加入率はどうか。 ・ 北里学区の自治会加入率は約 7 0 % である。役員の負担を理由に自治会を退会する人も多く、近年では組単位で自治会を脱退するケースも課題となっている。
委 員 座 長 まちづくり協働課	・ 自治会を抜けられると安全維持ができなくなる。参加したいと思える人を増やす。ハードを作るプラス参加者増やせるような取組にしていくことが大切。 ・ この計画でいくとコミュニティづくりは一区切りか。
座 長 まちづくり協働課	・ 2 年間で区切りとし、行政にて整備の方向性を出していく予定。 ・ 今後は、順調に進んでいきそうか。 ・ 地域の声を 2 年間で拾い上げたので、今後は検討委員会にて検討を進めていければ考えている。
事 務 局	4. 閉 会 省 略

終了時刻：15時30分